

実践のまとめ（第2学年 英語科）

村上市立山北中学校 教諭 渡辺 有香

1 研究テーマ

既習事項を総合的に活用した豊かな表現力の育成 ～ICTを用いた言語活動を通して～

2 研究テーマについて

(1) テーマ設定の意図

学習指導要領（外国語）では、多様な人々との対話の中で、目的や場面、状況等に応じて、既習のものも含めて習得した概念（知識）を相互に関連付けて「コミュニケーションにおける見方・考え方」を働かせ、言語活動を行うことが重要であると示されている。その際、既習事項をより深く理解すること、情報を精査して考えを形成すること、課題を見いだして解決策を考えること、身に付けた思考力を発揮させることが求められる。

しかし、生徒の実態をみると、学習した言語材料を断片的にしか使用できていないという課題がある。特に話すことにおいて、間違えたくない、自信がないなどの意識が働き、即興的に英語を生成することに苦手意識が強い。その原因として、日々の授業の中で、既習事項と新出事項を関連させながら取り組む課題設定が十分になされていないことが考えられる。

したがって、これまでに学習した全ての言語材料を活用する必要がある場面設定をし、生徒が毎時間の授業のペア活動などで既習文法事項を活用すれば、当該単元で学習した言語材料だけでなく、これまでに学習した言語材料を使った表現活動が可能になると考えている。また、ICTは言語活動において、思考を広げたり、整理したりするだけでなく、生徒自らの学びを振り返る手段としても、有効に活用することができると思う。

本研究では、ICTを用いた言語活動を通して、既習事項を総合的に活用した表現力の向上を図っていく。

(2) 研究テーマに迫るために

① ペアやグループで取り組む毎授業5分の帯活動

モデル会話を提示した日常会話のやり取りから段階的に取り組んでいく。その際に、生徒が目指す姿をステップ1からステップ3まで提示し、達成度を確認しながら、ステップアップしていけるように仕組んでいく。英語が得意な生徒と自信がない生徒が言葉を補いながら会話を広げていくことで、様々な表現方法に触れるとともに、会話によって相手との距離が縮まる喜びを互いに感じられる活動を行っていく。

② 教科書内容のRetelling活動

ゴールにつながる段階の一つとして、必要な語句や表現を定着させるために、教科書で学習した内容についてRetelling活動を行う。今回の単元は、職場体験を題材としており、生徒自らの体験について話す際に、参考になる表現や内容が多く含まれている。音読練習にとどまらず、自分の言葉で伝え直すRetelling活動をとおして、教科書で学習した表現を使いこなす力を育成していく。

③ ICTの思考ツールによる生徒の生活体験と英語を結びつける活動

伝え合う内容に重点を置いた言語活動で、思考ツールを活用する。本単元では、職場体験での「体験」「気持ち」「学び」をYチャート上に図示し、それぞれの分類ごとに振り返り、思考を広げさせる。次に、画面をピラミッドチャートに切り替え、それぞれの項目を関連付けながら、話すときの順序を構成させる。グーグルクロムブックのスライドでい

くつかの思考ツールを併用して活用し、話す活動や書く活動における表現力の向上につなげていく。

④ 動画撮影機能を使った学びの振り返り

発表練習では、ペアで撮影し合い、うまく表現できなかった部分や文章の構成を再確認する。学びの振り返りとして活用することで、より良い発表を目指し、表現力を高めていくことが期待できる。

(3) 研究テーマに関わる評価

パフォーマンステストで、ALTの理解の状況を確認しながら、その場で必要に応じて言葉を補いながら伝えることができる。

〈ルーブリック案〉

| | 相手への配慮 | | |
|---|---|---|------------------------------------|
| | コミュニケーション | 内容 | 表現方法 |
| A | 聞き手への問いかけや問いかけた後に考える間をとるなど、相手の理解の状況を確認しながらよく伝わるように発表している。 | 出来事や学び、自分の気持ちを関連付けて、教科書の本文を活用しながら、導入・展開・まとめの構成で、発表している。 | アイコンタクトやジェスチャーを取りながら、感情を込めて発表している。 |
| B | 相手の理解の状況を確認しながら発表している。 | 出来事や学び、自分の気持ちを関連付けて、導入・展開・まとめの構成で発表している。 | アイコンタクトやジェスチャーを取りながら発表している。 |
| C | 一方的に伝えている。 | B以下のもの。 | B以下のもの。 |

3 単元と指導計画

(1) 単元名

PROGRAM 5 Work Experience (SUNSHINE ENGLISH COURSE 2 開隆堂)

(2) 単元の目標

職場体験プログラム制度のないアメリカ出身のALTに、自分のことや山北の地域について知ってもらうために、自分の職場体験について、出来事や学び、自分の思いなどを整理し、既習事項と新出事項を総合的に活用して、聞き手の理解の状況を確認しながら、伝えることができる。（「話すこと【発表】」）

(3) 単元の評価規準

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ how to/look+形容詞、become+名詞〔形容詞〕 / 〈主語+動詞+人+もの〉の用法を用いた文の構造を理解している。 ・ 職場体験について、出来事や自分の思いなどを how to/look+形容詞、become+名詞〔形容詞〕 / 〈主語+動詞+人+もの〉の用法を用いて話す技能を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のことや山北の地域について知ってもらうために、職場体験について、出来事や学び、自分の思いなどを整理し、聞き手の理解の状況を確認しながら、話している。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分のことや山北の地域について知ってもらうために、職場体験について、出来事や学び、自分の思いなどを整理し、聞き手の理解の状況を確認しながら、話そうとしている。 |

(4) 単元の指導計画と評価計画（全13時間、本時10/13時間）

| 次 | 学習内容 | 学習活動 | 評価 |
|----------|---|--|---|
| 1 (1) | <ul style="list-style-type: none"> ・ A L T から依頼を受ける。 ・ 相手に伝わる紹介をするために必要なことを考える。 ・ A L T に職場体験について紹介するモデルを見る。 ・ ルーブリック評価を考案する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ A L T からのお願いを聞く。 ◎ A L T に職場体験について、自分のことや山北の地域を知ってもらえるように、英語で紹介するにはどのようにしたらよいか考えよう。 ◎ 単元のゴールをイメージしよう。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>指導に生かすことは毎時間行う。</p> <p>一斉に記録に残す評価は行わない。ただし、ねらいに即して生徒の活動の状況を見届けて</p> </div> |
| 2 (3) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 不定詞を使った「～の仕方」の用法を確認し、日本のお正月の遊びについて説明する。 ・ look + 形容詞、 become + 名詞(形容詞)の用法を確認し、相手の様子を表現する。 ・ 〈主語+動詞+人+もの〉の用法を確認し、相手の様子に合わせて、自分がしてあげたいことを英語で表現する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 日本の遊びや自分の特技など、やり方を知っていることについて A L T に伝えよう。 ◎ 相手の表情や状況から相手の気持ちを想像し、してあげたいことや自分がしてもらってうれしいことなどを伝えよう。 | |
| 3 (3) | <ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 Think1～Think3 の本文内容を読み取り、必要な表現や語彙を身に付ける。音読→Retelling 活動→登場人物の質問に答える活動に取り組む。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ ダニエル、真央、健の職場体験について読み、発表に使えるような表現を練習し、自分ならどう答えるか考えよう。 | |
| 4 (4) | <ul style="list-style-type: none"> ・ Yチャートとピラミッドチャートを用いて、思考を広げ、整理し、構成を練る。 ・ 発表で使いたい写真やイラストをスライドで準備する。 ・ 個人で練習する。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 自分の職場体験について考えを整理し（Yチャート）、どのような順序で伝えるか、構成を練ろう（ピラミッドチャート）。 ◎ 発表で使いたい写真やイラストを準備しよう。 ◎ 目指す姿に近づけるように個人で練習しよう。 | |
| 本時 | <ul style="list-style-type: none"> ・ グループでプレ発表を行う。（録画1） ・ 録画したものをみて、ルーブリックをもとに、改善点を話し合う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 聞き手の理解の状況を確認しながら、プレ発表し、友達からアドバイスをもらおう。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思・判・表</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">態度</div> <p>【動画データ】</p> |
| | <ul style="list-style-type: none"> ・ 改善点を踏まえて、プレ発表を行う。（録画2） ・ 振り返り、自己評価を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ◎ 改善点を踏まえて、聞き手の理解の状況を確認しながら、プレ発表しよう。 | <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">思・判・表</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">態度</div> <p>【動画データ】</p> |

| | | | |
|----------|---|---|------------------------------------|
| 5 (2) | ・ A L Tに職場体験での経験や学びを 発表する。(録画3)理解の状況を確認する 問いかけを入れながら行う。 | ◎ A L Tに「職場体験」を紹介し、自分のこと や山北の地域について伝えよう。 | 思・判・表 態度 知・ 技【動画データ、自己評価】 |
| 後日 | ・ A L Tとやり取りをしながら、職場体験について紹介する。 | ◎ パフォーマンステスト ◎ 単元末テスト | 思・判・表 知・技 態度【評価シート、観察、単元テスト】 |

4 単元と生徒

(1) 単元について

本単元では、how to～、look+形容詞、第4文型を使って英語で表現する能力と、それらの言語材料を使って積極的に相手に伝えようとする態度を育成することがねらいである。その仕掛けとして、教科書中の職場体験を題材とした、3人の登場人物のやり取りや発表を扱う。本校の生徒も、6月に山北地域の事業所で職場体験を行っているため、題材については身近に感じるものであると考えられる。また、A L Tの母国アメリカでは職場体験プログラム制度がないため、日本の中学生が職場体験でどのような体験をしていくのか興味を示している。A L Tの異文化理解、地域理解の手助けになるように、職場体験での出来事や学びをA L Tに伝えるという課題を設定する。体験での学びや今後の生活への意気込みを付け加えて表現させることで新出事項と既習事項を関連付けた活用を図っていく。

(2) 生徒の実態

これまでに、村上市のおすすめ観光スポット紹介や日本の国内旅行の提案プレゼンテーションなどを行った。その中で、事実や自分の考えを整理し、聞き手に分かりやすい展開や構成などを考えて、発表する活動を行ってきた。まとまりのある内容を伝える際に、文章の構成を意識する生徒が増えてきたが、聞き手に分かりづらかった表現を確認することや、理解しているのか確認するための問いかけをするなど、コミュニケーションを取りながら発表することに課題がある。

帯活動や本単元の活動をとおして、生徒同士の気付きや助言が次の活動につながるように指導するとともに、既習事項と新出事項を関連付けながら、聞き手の理解の状況を確認しながら伝えることができる生徒の姿を期待する。

5 本時の展開（令和4年11月18日実施）

(1) ねらい

異なる事業所で職場体験をしてきている友人を相手に、理解の状況を確認しながら、自分の職場体験について発表し、アドバイスし合うことで改善点を見つけ、より良い発表にすることができる。

(2) 展開の構想

これまで学習してきた表現を活用し、グループで発表練習を行っていく。I C Tの動画撮影機能を使い、発表の様子を記録する。聞き手に配慮しながら発表しているか、自分の発表を客観的に見て振り返るとともに、グループ内でアドバイスし合うことで、発表内容や発表の仕方の改善点に気付くよう、話し合いの時間を設定する。

(3) 展開

| 時間 | ・学習活動 | ○教師の働き掛け | □評価 ○支援 |
|----|---|--|---|
| 10 | ・日常的な話題について話し合う帯活動 ・今日の目標、流れの確認 | ○リアクションをしながら会話をつなげるように促す。 ○本時の授業のねらいと流れを説明する。 | ○机間巡視をし、支援する。言えなかった表現を共有する。 |
| 35 | ・ゴールの姿の確認 ・グループで職場体験について発表する（1人2分） ・グループで発表について、振り返る（5分） ※発表と振り返りをセットで行い、一人ずつ順番に行う。 ・グループ内で言いたかったけど言えなかった表現について、全体で考える。 | ○目指す姿を確認する。 ○役割分担（司会、録画役）の確認をする。録画は、発表者と聞き手が映る場所に置いて行う。 ○発表の際に、写真やイラストを見せながら、伝わっていることを確認しながら発表することを意識させる。 ○録画した動画を見て、どの部分が理解しにくかったか、理解してもらうためにどのような問いかけや説明があったら良かったかについて、アドバイスし合うよう指示する。 ○うまく言えなかった表現をあげさせて、全体で共有する。 | □聞き手の理解の状況を確認しながら、話そうとしているか。 □より良い発表にするための改善点を話し合っているか。 ○必要に応じて、全体にフィードバックする。 |
| 5 | ・振り返り | ○今日の活動の振り返りをシートに記入させる。 | |

6 実践を振り返って

(1) 授業の実際

① ペアやグループでの帯活動について

日常会話について1分間のやり取りを4回、ペアを変えて行った。生徒が目指す姿とALTとやり取りしたモデル文を提示することで、英語が得意な生徒は、相手の返答に応じて質問を付け加えるなど、会話を広げていくことができた。また、英語が苦手な生徒は、必要に応じてモデル文を参考にしながら、スムーズに活動に取り組むことができた。1回目、2回目、3回目、4回目とペアを変えながら練習を重ねる中で、相手の発話を参考にし、自分の発話を修正する生徒の姿も見られた。最後に、全体で「言いたかったけど言えなかった」語句や表現を考えることで、さらに表現の幅を広げたり、日常と英語表現のつながりを深めたりすることができた。

② Retelling活動について

イラストや英文の情報量が多いスライドと主要なイラストと語句のみの、より表現力が求められるスライドの2つのレベルのスライドを活用した。生徒の振り返り（表1）から、教科書の本文や既習表現から、使える表現を探り、試行錯誤したことがわかる。

表 1 生徒の振り返り

| | |
|--------|---|
| 11月10日 | ・真央とダニエルの職場体験について、スライドのヒントを見ながら頭をフル回転させて頑張った。もうちょっと、英語の語彙を増やして、相手にわかりやすくスムーズに伝えられるようになりたいと思った。（抽出生徒A） |
| 11月10日 | ・ダニエルの職場体験について単語・英文付きのスライドで見なくても言うことができたので、次は英文が付いていないスライドで言えるようになりたい。（抽出生徒B） |

③ ICTの思考ツールを用いた言語活動について

自分の職場体験について思考ツールのYチャートを活用して整理させた。（図1）

まず、教科書本文で使いたい表現が「体験内容」「周りの様子」「学び」のどこで活用できるかを判断し、振り分けていった。教科書の英文を部分的に変えたり、新たに自分で英文を作ったりと、スムーズに思考を広げていく姿が確認できた。その後、ピラミッドチャートに切り替え、体験と学びを関連付ける作業を行った。（図2）この時に、伝えたいエピソードが2つあることに気付く生徒や、具体例を挙げて体験内容を書き足す生徒が増えてきた。ICTの思考ツールの併用は、英文を移動させたり、編集したりすることが容易にでき、構成や内容面の充実を図ることに有効であったと考える。

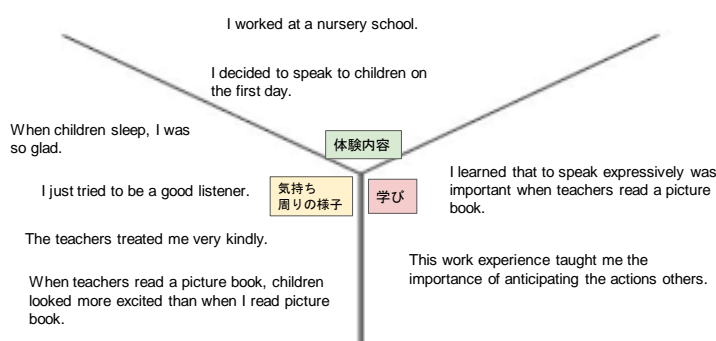


図 1 抽出生徒 C

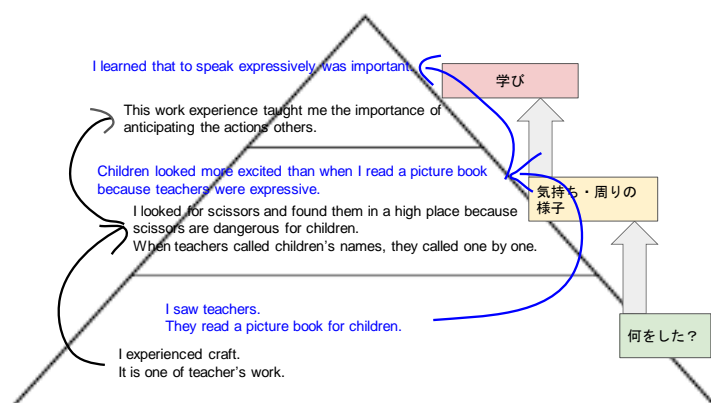


図 2 抽出生徒 C

④ 発表練習及び英語話者との交流における ICTの活用について

発表練習で、発表者と聞き手の両者が映る位置に1人1台端末を置き、動画撮影を行った。動画撮影機能の活用は、アイコンタクトやジャスチャーなどの表現方法の項目については、客観的に分かりやすく、意見交換に説得力が増し、表現方法の向上につながった。また、ALTが各生徒の原稿を録音した音声をそれぞれの生徒にGoogleクラスルームで送り、繰り返し聞いたり練習したりすることで発音やイントネーションの表現力も高めることができた。

本単元の最後に、ALTから依頼を受け、Zoomを活用して、アメリカ在住のALTの家族に発表を行った。日本語が通じない英語話者との交流体験は、本単元で目指していた相手への配慮の中の、「聞き手への問いかけや相手の理解の状況を確認しながら発表する」というコミュニケーションの項目を高めるために、有効な手立てであることがわかった。



(2) 研究テーマに関わって

毎授業5分の帯活動で、目指す姿とモデル文を提示しながら、ペアで1分間やり取りする活動は、生徒が様々な表現方法に触れるとともに、「言いたいことを伝えたい。」「相手のことを聞きたい。」という気持ちを高めることができた。そのことが、「これまでに習った表現を活用して会話を広げたい。」という英語学習への意欲の向上につながったと考えられる。振り返りシートで帯活動に関する記述については、次の通りである。(表2)

表2 抽出生徒Dの日を追うごとの振り返り

| | What did you learn? |
|--------|---|
| 11月7日 | ・英語で人と話すときの表現の仕方が増えた。完璧に使いこなせるよう何度も練習しようと思った。 |
| 11月10日 | ・文を読むときにつかえたり、今までに習った表現を忘れて話すときに使えなかったりしたので、家でも練習したい。 |
| 11月11日 | ・話す内容を考えて相槌を打ったり、それに関連する質問をしたりするのに慣れてきた。今までの表現を使ってもっと話を広げていきたい。 |

自分の職場体験についての発表を考える際に、これまで表現活動でGoogle翻訳に頼りがちだった生徒たちも、教科書の英文が使えることに気付くと、じっくりと教科書の英文を見直し、部分的に変更して自分の発表に取り入れる姿が確認できた。また、相手に配慮した発表にすることを目標として提示したことで、自分たちが習った表現を使うことがお互いに練習するときにも分かりやすい発表になるというイメージをもつことができ、既習事項の活用への意欲が高まったと考えられる。

(3) 今後の課題

職場体験は、生徒にとって関心が高く、発表しやすい内容であった。生徒の中には、導入で職場体験先に関連して、日本の米の生産量や余剰米についての事実を述べたり、なぜその職業に魅力を感じるようになったのか、ストーリーを取り入れたりするなど工夫している生徒も見られた。表現方法の振り返りだけでなく、内容面に関する意見交換を深めるために、ICTの有効な活用方法を考えていきたい。

即興でやり取りする場面での既習事項の活用力については、今後も継続して取り組んでいく必要があると感じた。実際のALTの家族への発表中で、質問されると、聞き取れず慌ててしまい、帯活動ではできていた簡単なやり取りや聞き返しができない場面があった。今後は、帯活動での取組を生徒が真に自分のものにし、英語話者とのコミュニケーションの場面などでも生かせるような指導を行っていきたい。